

「雲量の観察(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

本校が採用している大日本図書の理科教科書では、5年の最初の単元は「天気の変化(1)」である。この時期、弧状列島付近は天気の変化が顕著で、気象の学習には適していると言える。

「天気の変化」の学習では、空の様子(雲の種類や動き)や天気の継続的な観察が重要となる。一日の中(たとえば午前と午後)での変化、日々の変化の両方の観察が大切だろう。ノートに直接観察させても良いのだが、やはり統一した形式の観察用紙を用意したほうが良い記録が残せるように思う。

天気と雲のようす観察用紙 5年 組 番()



観察日	月 日 (曜日)	
観察場所		
観察時刻	午前 (時 分 ころ)	午後 (時 分 ころ)
空のようすの絵		
天気・気温	(°C)	(°C)
雲の量	約10分の ()	約10分の ()
雲の形と動き		
天気の変わり方		

※ここには、新聞やインターネットの雲画像、天気図、デジカメの写真などをはりましょう。

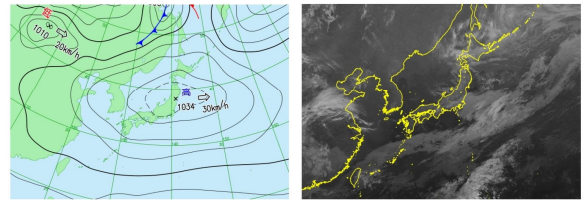
今回の5年生では、このような観察用紙を用意した。一緒に5年理科を担当する教員と相談しながら、教科書に載っている観察記録例を参考に、一部を変えてみた。教科書では気温の記入欄はないが、日ごろ気温を測定することが当たり前になっている子どもたちなので、気温の欄は設けることにした。また、教科書では「雲の量」は「空全体を覆うような雲」といった表現だが、この用紙では「10分の○」と、数値で記入させることにした。教科書では「雲の形」「雲の動き」

は別の項目になっているが、これは一つの欄とした。上層雲と下層雲で移動方向や速度が異なることもあるからだ。

天気と雲のようす観察用紙 5年0 組 0番 (天気見太郎)

観察日	4 月 12 日 (月曜日)	
観察場所	小学校の校庭 (午後は文京区湯島)	
観察時刻	午前 (10時20分ころ)	午後 (15時 40分ころ)
空のようすの絵		
天気・気温	くもり (17 °C)	晴れ (24 °C)
雲の量	約10分の (9)	約10分の (4)
雲の形と動き	波うったような雲(うね雲)が空をおおっていて、ゆっくり動いていた。	わた雲(積雲)がボカボカうかんできて、西から東にゆっくり動いていた
天気の変わり方	天気予報の通り、最初はくもりで、じかんだたつにつれて天気よくなってきた。気温もあがっていった。	

※ここには、新聞やインターネットの雲画像、天気図、デジカメの写真などをはりましょう。



雲や天気の観察では、家庭学習での観察になることも多いので、記入例も作成して配布しておいた。観察用紙、記入例とも、縦24.5cm、横17.5cmとし、理科帳よりもわずかに小さいサイズとした。



学校で観察する場合、「天気が下り坂」の日、つまり観測地に低気圧が近づいているような日が一番良い。この日は西日本から天気が悪化し、朝は快晴だった空に、巻雲や変化巻雲などの上層雲が現れ始めていた。まさに観察に絶好の日と言える。